Title: 念法2043号2022年10月23日.eca Page: 1 Date: 2022/10/05 Wed 13:28:10

念法時報

発行所
大阪市鶴見区緑３丁目
４番22号
念法時報社
発行人 一宮良範
電話 06(6911)2101㈹

定価１部10円
送料 １部につき41円
送料共１カ年 1,200円

聖語

教団を愛するとは、人を愛し、仕事を愛し、国を愛することである。
教団を護持するとは、人を護り、仕事を護り、国を護ることである。
（念法法語より）

親子で学ぶ 防災

濱口 和久

日本人は台風から逃れない

二週続けて日本列島の各地に被害をもたらした台風一四号と一五号。そもそも日本列島は、古くから「台風銀座」と呼ばれ、毎年、数多くの台風が上陸や接近して大きな被害をもたらす。台風は北緯五度から四五度、東経一〇〇度から一八〇度の範囲で起き、この範囲しか通過しない。台風は極めて限定された地域での気象現象であり、日本列島は台風の通り道に位置している。

日本史上最大の被害をもたらした台風は、文政十一（一八二八）年のシーボルト台風（死者・行方不明者約一万九千人）だ。明治維新以降で見ると、台風被害は昭和に入ってからが特にひどい。昭和九（一九三四）年の室戸台風（死者・行方不明者三千三十六人）、同二十年の枕崎台風（死者・行方不明者三千七百五十六人）、同三十四年の伊勢湾台風（死者・行方不明者五千九十八人）と続き、「昭和の三大台風」と呼ばれている。これら以外にも昭和十七年の周防灘台風（死者・行方不明者千百五十八人）同二十二年のカスリーン台風（死者・行方不明者千九百三十人）、同二十九年の洞爺丸台風（死者・行方不明者千七百六十一人）などが大きな被害をもたらした。

平成二十七年三月十一日付産経新聞によると、気象情報は軍事作戦に影響を及ぼすとして、大東亜戦争中は機密扱いとされた。昭和十六年十二月八日に日本海軍がハワイの真珠湾を攻撃したときも、ハワイ諸島周辺の気象状態が事前に検討されている。開戦後、国民向けの天気予報がすべて中止されたことが、周防灘台風で一千人を超える犠牲者を出す一因となった。敗戦後、占領下での気象業務は、連合国軍総司令部（GHQ）の管理の下に置かれる。米国の慣例に従い、英語の女性の名前が付けられたのがカスリーン台風である。

昭和の三大台風

昭和九（一九三四）年九月二十一日に高知県室戸岬に上陸した室戸台風は、阪神地区に再上陸すると、大きな被害をもたらした。

大阪では台風の上陸から三十分で、高潮によって二㍍を超える海水が流入する。瞬く間に大坂城（大阪市中央区）付近にまで海水が押し寄せ、町中が水浸しとなった。大阪の人たちは、急激な水位の上昇で避難もままならず、大阪湾一帯で推定千九百人以上が溺死。日本最古の寺院の一つとされている四天王寺では五重塔と仁王門が全壊し、金堂も大きく破損した。

学校施設の被害も甚大だった。耐震構造でない木造校舎の多くが倒壊し、児童・生徒や教職員あわせて八百九十三人が犠牲となった。

京都の両洋中学校では校舎が倒壊したあと、薬品が自然発火。生き埋めになっていた生徒や教職員が焼死するという痛ましい事故も起こった。

大阪朝日新聞夕刊九月二十一日付は、「大台風席捲、近畿空前の惨禍」という見出しをつけ、室戸台風による被害を伝えている。

大東亜戦争の敗戦から一カ月後の昭和二十年九月十七日、鹿児島県枕崎市に上陸した枕崎台風は、米国の原爆投下により被災した広島県に甚大な被害をもたらした。広島市と呉市周辺だけで二千十二人が犠牲となった。

広島県内では、降り続く雨により、傾斜地のいたるところで「山津波」と呼ばれる土石流が起きた。

戦時中、石油の不足から、松の木の油を代用するために根こそぎ山林を伐採。はげ山になった事で、斜面が崩壊しやすい状態になり、土石流が起きたと考えられている。また、暴風雨と堤防の決壊や河川の氾濫により、洪水がバラック小屋を襲った。敗戦直後の混乱のなか、広島では防災体制の不備や防災情報を市民に伝える通信手段がなかったことが、被害を大きくしたと言われている。

「もはや戦後ではない」という言葉が広がり、高度経済成長の真っ只中の昭和三十四年九月二十六日、和歌山県潮岬に上陸した伊勢湾台風は、伊勢湾奥の低平地を泥の海に変え、東海地方を中心に中国・四国地方から北海道までの広い範囲にわたって大きな被害をもたらした。特に伊勢湾に面した愛知・三重両県の被害が甚大だった為、この名が付けられた。

明治維新以降の台風被害のなかで、人的被害が最大なのが伊勢湾台風だ（内閣府中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」普及啓発用小冊子『災害史に学ぶ「風水害・火災編」』）。

伊勢湾周辺の被害が大きかった要因の一つに、台風の通過時刻と伊勢湾の満潮が重なったことが挙げられる。

名古屋地方気象台は、高潮は二㍍と予想していたが、実際には名古屋港で最高五・三㍍を記録し、堤防を超えて海水が海抜ゼロ㍍以下の低平地に流れ込んだ。名古屋港の貯木場にあった大量の木材が、海水と一緒に市街地に押し寄せ、犠牲者の八割以上が高潮で亡くなっている。

台風が上陸する午後六時ごろ、強風により名古屋市内は停電する。電池式ラジオであれば停電しても受信できたが、当時の主流はコンセントから電気を引く真空管ラジオだった。停電と同時に、多くの家庭で台風に関する最新の情報を入手できなかったことも被害を大きくした。

高潮災害の危険地帯でありながら、市民の防災意識の欠如、行政の対応の遅れや、高潮を防ぐための堤防の不備なども被害の拡大に繋がった。

伊勢湾台風の被害を契機として、二年後の昭和三十六年十一月、大東亜戦争後の防災対策の転換点となる「災害対策基本法」が制定された。

平成の時代に入ると死者数は激減したが、近畿地方に大きな爪痕を残した平成三十（二〇一八）年の台風二一号や、令和元（二〇一九）年の台風一五号と一九号の被害は記憶に新しい。

巨大化の原因は？

現時点で地球温暖化の影響が台風の大きさや強さに及んでいると結論付けるには至っていない。

なぜなら、台風の年間発生数に対する最大風速が毎秒三三㍍以上の「強い」勢力を持つ台風の発生割合は、一九七〇年代後半から八〇年代後半にかけて増加傾向にあったが、八〇年代後半をピークに九〇年代後半まで減少傾向が続き、二〇〇〇年代になって再び増加に転じている。

このような動向は十～二十年程度で増減するため、地球温暖化による気温の上昇傾向と明瞭な相関があるということは断言できないからだ。

しかし、気象庁気象研究所や地球科学技術総合推進機構を中心とする研究グループによる二十一世紀末頃を想定した温暖化予測実験によると、熱帯低気圧の発生数は、現在、気候再現実験における発生数よりも三〇％程度減少する一方、海上（地上）の最大風速が四五㍍／秒を超えるような非常に強い熱帯低気圧の出現数は、地球温暖化に伴って増加する傾向があると分析しており、災害が全体として激化することを想定しておくべきだろう。

最後に、日本人は台風を甘くみるべきではない。日本列島に暮らす私たちは台風から逃げることはできないのだから。

＝随時掲載（一般財団法人防災教育推進協会常務理事兼事務局長）